

「出会いがくれたもの」

泉中学校 二年 杉林 明涙

みなさんは、新しいことに挑戦するとき、怖かつたり、不安だつたりしませんか？私はいつも不安で自信をなくしていました。けれど、今私には少しの自信と勇気があります。それは、たくさんの経験と出会いからつくられたものです。

私は、小学校の中での三年間、ことばの教室に通っていました。そこは、言葉の発達や課題がある子どもをサポートしてくれるところです。私は力行やサ行の発音が上手くできなくて、心配した当時担任だった先生に通級を勧められました。私は友達に発言時や会話の中で聞き返されることも多く、笑われたりすることが悔しくて泣いたこともあります。他の人と比べ、「なぜみんなにはできて私は同じことができないのだろう。」と落ち込んでしまい、そのことを考える度に自信をなくしてしまったことがあります。そんな事情を抱えている私は、少しでも変わりたいと思い、ことばの教室に通うことを決意しました。

最初は恥ずかしく、通うことに抵抗がありました。週に一回、授業中に一人だけ抜け、違う小学校に通うことは、その時の私にとつて、みんなと違うことをすることが不安だったのだと思います。教室に通うようになり、はじめのうちは自分では変化を感じづらく、「本当にやっていることに意味はあるのだろうか？」と考えてしまふことも度々あり、終わりのみえない取り組みに不安が募ることもありました。でも教室の先生は発音を教えてくれるだけでなく、学校の話や自分の気持ちなどを聞いてくれました。また、組まれたメニューを繰り返すことにより発音も少しずつ良くなり、気づけば教室に行くことがとても楽しみになつていました。さらに特別な目で見ることなく手を振つて送り出してくれた友達にも有難い気持ちになりました。そんな日々を過ごしていくうちに、代表委員を任され、人前で話したり行動したりする機会をもらいました。しかし、うまくいかないこともまだまたたくさんありました。けれど、友達や家族に励まされ、自分で考えながら乗り越えました。そして、小学校の先生に中学校の新入生代表のことばを任せてもらうまでになり、今まで一番の大舞台を踏むことに、とても緊張しました。でも、今まで頑張ってきたことがあると思うと、「自分はできる。」と自信を持つことができたのです。たくさん練習し、不安を努力で打ち消そうとしました。この出来事を契機として、私の人生はどんどん積極的な方向へ回り始めたのです。中学校に入り、担任の先生に生徒会のことを教えてもら

い、また新しいことに挑戦するきっかけを与えてもらいました。また、スポーツは苦手でしたが、そこで顧問の先生との出会いもあり、運動部に入ることになりました。部活の仲間とのコミュニケーションも活発になり、互いに切磋琢磨しあう姿が良い刺激となっています。大変なこともありますが、喜び、励ましあい、大切な時間に感じています。

振り返ると、たくさんの人との出会いがありました。その中で私は成長し、経験し、自信をもてるようになつたのです。周りの人達に信じてもらい、チャンスを与えてもらえたこと、認めてもらえたこと、背中を押してもらえたこと、励ましてくれたことが、いつも新しいことに挑戦する勇気となりました。今まで出会った先生、友達、みんなに感謝したい気持ちで一杯です。

今度は私の番です。これからは私が、新しいことに挑戦したいと思っている人の力になり、今までたくさん的人が私にきっかけを与えてくれたように、私はそれのある人にまた同じことができ、そういう人達を支え、その人の人生のなかで「この人と出会つて良かった。」と思つてもらえるような人になれるように、努力を重ねていきたいと思つています。